

教会だより



二十六聖人

2023年7月号

No. 360 (2023年7月2日発行)

カトリック二俣川教会 TEL 045-391-6296

<http://www.futamatagawa-cc.com/>

主任司祭：ヤコブ 姜 真 求 (カン ジング)

巻頭言： 司祭、信者と共に生きる人

韓国の教会は、「講学会」というヨーロッパの学問などを勉強する集いから芽生え、1784年、李承薫(イ・スンフン)という人が北京でペトロという洗礼名で洗礼を受けることから始まりました。最初はこのペトロ李承薫を中心とした、所謂「仮聖職制度※1」の教会でしたが、それが間違いだったとわかり、それからは、宣教師の派遣を求める書簡を教皇庁や北京の司教に絶えず送り続けました。そして、ついに1831年、北京から独立した「朝鮮代牧区※2」となり、それと共に、初年代牧区長としてブリュギエール司教を迎え入れることになったわけです。

このブリュギエール司教は、朝鮮代牧区が設定される前から、パリ外国宣教会の一員として朝鮮教会の独立と、牧者として、また宣教師としての朝鮮での活動を熱く希望していた人でした。そういうわけで、初代朝鮮代牧

区長となった彼は、一日でも早く朝鮮代牧区に行き、厳しい迫害の中で苦しんでいた朝鮮の信者たちの力となろうとしました。しかし長い間続いていた国内の迫害や中国教会の色々な事情があり、結局、ブリュギエール司教は朝鮮半島に入ることができず、中国で息を引き取ってしまったのです。遠くの他国で、夢でも慕っていた朝鮮代牧区とその代牧区民である朝鮮の信者たちとの出会い。その熱望はブリュギエール司教が朝鮮代牧区の信者たちに送った次の手紙で確認できます。

「あなたがたの願ったことがかなえられました。天主様があなたがたの祈りを聞き入れてくださいました。慈しみ深い天主様はあなたがたに宣教師たちと一人の司教を送ってくださいます。その特恩をいただいた者がまさにこのわたしです。わたしは、あなたがたの中で生き、また、死ぬためにすぐ出発しま

す。あなたがたの王朝にヨーロッパ人を迎え入れることから生じるはずの苦しみのために恐れないように。神様にこの大きな事業を任せてください。その方の天使たちと聖人たちに祈り、特に聖母の頼もしい保護を願ってください。自らの事業を始められた主は、成功裏にその事を終えられるはずです。」

最近、ある事がきっかけとなって、わたしは韓国教会の歴史を改めて調べることになりました。そして、大きな感動を覚えました。それと同時に今の自分についてもう一度、考えてみるようになりました。この7月には、聖ヤコブ使徒の祝日や、韓国の聖職者の守護の聖人であるアンデレ金大健(キム・デゴン)神父様の祝日があり、また、わたしの司祭叙階記念日もあります。そこで、毎年7月になると、自然に司祭召命について考えてみるようになるわけです。

ところが、朝鮮代牧区の初代代牧区長となったブリュギエール司教のことを調べながら、わたしは自らを反省せざるを得ませんでした。日本と日本教会への愛、この日本での働きへの熱望、神様にすべてを任せる信仰とイエス様に従う素直な態度、信者共同体と共に働く姿勢、人に対する尊敬と自分をへりくだる心、霊的に目覚めている魂、すべてを捨てる勇氣など。いつの間にか、これらのことを少し失ってしまったのではという気がします。これから、もう一度自らを省察しつつ、司祭として、宣教師としての道を歩んでまい

りたいと思います。このわたしのために、また、すべての司祭のために信者の皆さんのお祈りをお願い致します。

ちなみに、日本も韓国もわたしたちの信仰の先祖たちは、神様に、一人でも多くの宣教師を送っていただきたいという熱望を抱き、それを神様に願い祈りました。そもそも司祭は信者の皆さんと共にいる時、一番幸せを覚えるものです。信者と共に呼吸し、共に悩み、共に涙をし、共に楽しみ、共に歩むことができる司祭は、なんと幸いです。神様がそういった司祭をわたしたちの中から召し出してくださり、また、わたしたちがその司祭の力と支えとなることができるよう、神様の慈しみと愛をお祈り致します。

※1「仮聖職制度」 信仰共同体の指導者たちが自ら聖職者を選んでミサや他の秘跡を行った制度。

※2「代牧区」 カトリック教会の教区がまだ設置されていない宣教地域に設立された管轄の一形態。使徒座代理区ともいう。様々な場合があるが、本質的には該当地域の信徒数が増え、正式に教区に昇格するまでの暫定処置である。

主任司祭 ヤコブ 姜 真求

2023年6月教会委員会報告（6月4日開催）

【信徒意見への対応】

皆様から頂いたご意見に対する討議結果をご報告します。今月は次の一件だけです。

意見「正しいミサの与り方を教会全体に広めてほしい。」

討議結果：ミサ中、神父様がお辞儀をするとき一緒にする人としらない人がいます。どちらが適切なのか改めて学ぼうという意見です。経験的にミサ中の立居振舞を知っていても、なぜそうするのか学ぶ機会は意外とありません。そこで、数回に分けて神父様に解説して頂くことにしました。準備が整い次第始める予定です。

【検討事項】

1. 月定献金促進キャンペーン：月定献金を納める信徒数が少しずつ減っています。司牧活動を支えているのは一人ひとりの月定献金だという意識が薄れているとしたら大変です。そこで、本年7月から月定献金推進キャンペーンを開始することにしました。これは月定献金をしたことがない方や中断した方に呼びかけるキャンペーンです。月定献金の増額をお願いしているではありません。

2. バザー：実行委員8名が決まりました。6月18日に第一回委員会を開きます。

3. 敬老の集い：9月10日に開催します。集いに招待する方々やお祝品を贈る方々は

2019年のときと同じです。7月から準備を開始します。

4. 玄関当番の待機場所：今まで玄関当番はミサの間ずっとロビーにいましたが、ミサに集中するためアレルヤ唱が始まったら聖堂内に移動することにしました。

【報告事項】

1. 事務所

7月から二俣川駅切符売場向い側の案内地図に当教会の名前やロゴを掲示します。

2. 典礼委員会

①7月1日から、ミサの5分前に、タン・ホアン・フィー助祭の司祭叙階式のための祈りを捧げるようにします。

②ご遺族に事前に知らせず納棺式へ参列される方がおられるそうです。必ずご遺族と相談してから参列してください。

③神父様から典礼奉仕について次のような趣旨のお話がありました。

「若いときから香部屋係やオルガン奏者など様々な典礼奉仕に親しみ、奉仕の喜びを体験することはとても大切です。五十歳六十歳になって初めて奉仕を頼まれたら腰が引けると思います。ですから、もっと若者に奉仕への参加を呼びかけてください。」

3. 教会学校

- ①2023年の教会学校テーマを決めました。「集まろう！イエスさまが呼んでるよ」
- ②子ども達によるミサの奉納を始めました。また、8月に夏合宿を計画しています。
- ③6月11日の洗礼・初聖体は1名です。お祝いカードを贈呈する予定です。
- ④5月末現在の教会学校の生徒数は次のとおりです。

クラス	名簿上の人数	出席数
幼児	12	7~8
小学生	16	合せて3程度
中学生	6	
高校生	11	

4. キリスト教講座

5月28日にフォローアップ研修を行い、4名が参加されました。6月25日に第2回を行う予定です。

5. 福祉委員会

6月11日10時ミサ後に今年のバザーについて話し合いをする予定です。

6. 共同墓地委員会

5月20日に上大岡共同墓地で「春の墓参」を執り行いました。

7. ヨゼフ会

6月24-25日に箱根で練成会を行います。

8. マリア会

- ①パーティー係による厨房の調理器具点検と清掃が終わりました。何時でも使えます。
- ②5月28日にポリビア支援グループのジャム対面販売を行いました。

9. 青年会

- ①高校生・大学生3名が9月16-18日に韓国の教会を訪問します。旅費の一部に充てるため、飲み物等の販売を行い、募金もお願いする予定です。ご協力をお願いします。
- ②7月9日に恒例の「わかちあいたいかい」を行います。男性女性若者ご高齢者すべて大歓迎です。気軽にご参加ください。

10. インターファミリー

5月28日にアルペ難民センターのボランティアA.Y.さんを招いて難民の置かれている状況を聞きました。7月に同センターを訪問する予定です。

11. 一粒会

10月9日に鎌倉清泉小学校で一粒会大会を開催します。参加者を募集しますが、参加人数に制限があるので希望者全員は参加できない可能性があります。

以上

月定献金促進キャンペーン★第1弾★

教会はみなさんのお祈りと献金で支えられています

納めていますか月定献金？

月定献金とは教会維持費のことです。信徒の皆様が安心してミサに与れるよう教会の維持・管理に使われるお金のことです。今、月定献金が少しずつ減少しています。

理由はいくつか考えられるのですが、一つには献金世帯数の減少があります。2020年度との比較でも30世帯件の減少（率で44.7%→41.9%、約3%の減少）となっており、このまま献金世帯数減少傾向が続くと40%を切ってしまう恐れがでてきています。二つにはこの3年間に及んだコロナ禍で教会から離れている献金中断者の戻りがおそいことが考えられます。教会は皆様の献金によって支えられています。維持が不可能になれば何かを縮小しなければならないでしょう。司牧活動にも少なからず影響を与える事となる可能性が出てきます。

また、建物の修繕やリニューアルなどにも将来多額の費用がとなります。それを補っていくのが『建設修繕積立金』です。これも併せて月毎に納入をお願いしたいのです。

月定献金を納めていない方は、この機に始めていただくようお願いします。今回のキャンペーンは月定献金世帯数を増やすのが目的であり、既に月定献金を納めている方の献金額増額を求めてはしません。献金世帯数を増やして教会へ眼を向けて頂くことを主眼にしています。お金の話ばかりで申し訳ないのですが、一人ひとりが教会を支えているという自覚を持って頂きたいのです。

是非とも皆様のご理解とご協力を、重ねてお願いいたします。



受洗と初聖体



6月11日キリストの聖体の祭日に、中学1年生のK. D. さんが洗礼・初聖体のお恵みを授かりました。皆さまのお祈り、本当に感謝いたします。これからも、乳幼児さん、小学生、中学生、高校生へのお声かけ、お祈りをどうぞよろしくお願いいたします。教会全体の温かい眼差しこそが、子どもたちの信仰の糧となることと思います。

ラファエラ K. D. さんが、ごミサの最後に挨拶されました。
「洗礼を受けるためにリーダーさん達と3か月間、勉強をしました。3か月って長いと思ってたけどあっという間でした。今回はひとりで緊張したけれど、自分が主人公になったみたいで嬉しかったです。そしてたった私ひとりだけのために毎週朝早くから教会学校を開いて下さったリーダーさん達と、神父様、また私の代母になってくれた A. さんのおかげで無事に今日を迎えることができましたと思います。心から感謝します。聖書についてはまだ知らないことがたくさんありますが、これからも頑張りたいと思います。そして今日から私はラファエラになりました。その名前の通り人を助けられる人になりたいです。よろしくお願いいたします。」



姜神父様おめでとうございます！ ～司祭叙階記念日&霊名記念日～

7月13日（木）は姜神父様の29回目の叙階記念日です。姜神父様は1994年7月13日にソウル大司教区で叙階されました。2018年1月15日に二俣川教会主任司祭に着任されたので、約5年半、私たち共同体を司牧してくださっています。

叙階は、教会の頭であるキリストの代理者として、神と教会共同体に仕えるよう召し出された人に司祭職を授ける秘跡です。「司祭は、叙階の秘跡の力によって、新約の祭司として、福音を宣教し、信者を司牧し、祭儀を執り行うために聖別されます。新約聖書を読むと、使徒たちを選び、使命と権能をお与えになられたのはイエス様ご自身だということがわかります。イエス様が天の御父のもとに帰られてからも、使徒たちを通して、神の民をいつも守り、導いてくださっています。ですから、ある人を司教に、ある人を司祭になさるのは、イエス・キリストだということと言えます。」（女子パウロ会公式サイトより抜粋）

今月は改めて、私たち共同体の善き牧者・姜神父様とすべての司祭のために感謝を込めて、「司祭のための祈り」を共に捧げましょう。



司祭のための祈り

主イエスよ。

あなたは至聖なる聖体のうちにおられ、
あなたの司祭を通してわたしたちの間で永遠に生きておられます。

あなたの司祭のことばが、ひたすらあなたのことばとなり、
彼らの行いがあなたの行いとなり、
彼らの生き方があなたの生き方を真に示すものとなりますように。

司祭が神の民を代表して神に語り、

神の民に語りかけ、

勇気をもって奉仕し、

あなたのみ心のままに教会に仕えることができますように。

司祭が現代において永遠の神をあかしし、

あなたに従って歴史の道を歩み、

すべての人のために善を行うことができますように。

司祭がその務めを忠実に行い、

召命と使命を熱心に果たし、

司祭としてのあるべき姿をはっきりと現し、

与えられたたまものを喜びをもって生きることができますように。

聖母マリアに祈ります。

御子に最後まで従われたように

いつまでもあなたの司祭とともにいてください。

アーメン

(2008年5月 教皇庁聖職者省)

また、7月25日（火）は聖大ヤコブ使徒の祝日で、姜神父様の霊名記念日です。

聖大ヤコブってどんな方？

1世紀、イエスの12使徒のひとりであるヤコブは、ガリラヤの漁師の家に生まれました。福音史家ヨハネとは兄弟です。彼が大ヤコブと呼ばれるのは、使徒の中で最初の殉教者であり、イエスのいところにあたる小ヤコブと区別するためです。彼は、パレスチナの王ヘロデ・アグリッパのキリスト教迫害の際に捕えられ、斬首されました。

ヤコブは、スペインの守護の使徒と呼ばれていますが、それは、遺体がスペインに運ばれたからだと伝えられています。数世紀にわたる迫害と民族移動によって不明となっていた墓は、813年に発見されました。その場所は「コンポステーラ」（星が現われて、聖人の墓の場所を示したという伝説による）と名づけられ、最も重要な巡礼地 サンティアゴ・デ・コンポステーラ（ヤコブの星降る野原）となり、現在に至っています。

（女子パウロ会 公式サイトより）

巡礼路で見つけた聖ヤコブ像



サンティアゴ大聖堂



（写真提供 ラファエル W. S.）



イ 質問⑤。ナン神学生が1番好きな聖書箇所はどこですか？それは、なぜでしょうか？

+ そうですね。聖書の中に様々なエピソードが描かれ、それぞれ意味合いがあって、その時その時に読んで感じることによって、色々な思い出や体験を味わっています。好きな聖書箇所は色々あると思いますが、私は一番好きな聖書箇所がなかなか思い浮かばないのです。多分私はまだ、聖書の理解が深いところまで至っていないからかも知れません。

でも実はそんな中でも、徴税人ザアカイの話（ルカ19：1-10）が好きで一番記憶に残っています。何故かというところの話が私にとって最初の聖書体験のようなものだからです。「聖書体験のようなもの」というのはこの話との出会いは聖書を読んだのではなく、ザアカイという人物についての歌を歌ったことだったのです。小学校4年生頃だったと思いますが、夏休みの間に毎日教会学校へ通っていました。子供だから、遊びのような勉強会でした。毎日クラスの初めと終わりに皆で歌っていました。そのザアカイの歌もよく歌いましたので、歌詞もメロディーも覚えています。そして、今でも聖書のザアカイの話を読んだり聞いたりする度にこの歌が思い浮かぶのです。「昔の話、ある徴税人が可愛い名前を持っていました、ザアカイ矮人と言いました。偉いのはイエスのことを信じて、イエスを見るためにいちじくの木に登った…」直訳するとこんな歌詞です。

勿論、この歌だけではなく、今まで聖書と聖書解釈を読んだり、色々な説教を聞いたりして、また、こちらの神学院で学ぶことによってこのザアカイのエピソードの深い意味を実感し、聖書的なメッセージを色々な角度から受け取ることが出来てきました。特にこの話で私が感じたのは、ザアカイさんのイエスとの出会いの大きな喜びです。この喜びをザアカイの話の聴く度にいつも共感しています。ザアカイさんはイエスと出会った瞬間から「急いで降りる」、「喜んでイエスを迎える」、「財産の半分を貧しい人々に施す」、「だまし取っていたものを4倍にして返す」これらのザアカイさんの言動を考えると、なんと不思議なことだろうと感じます。そういうわけで、私はこの聖書箇所が好きで記憶に残っているのです。



イ 質問⑥です。日本に来て、1番驚いたことは何ですか？（ベトナムとの違いや、初めての経験など）

+ 私が日本に来てそろそろ9年目になります。いろいろなことを見聞きしましたので、驚いたことも多いのです。その中で1番は日本人が裸で一緒に温泉に入ることです。ベトナムにはないし、まずそんな温泉文化がありませんのでイメージするだけで恥ずかしく、驚いていました。それで、温泉に入るとは私が来日したばかりの時の1番苦手なことでした。皆と一緒に裸で温泉に入るとはとりあえず、恥ずかしくて何回も誘いをお断りしました。ですが、日本に住んで、段々慣れてきて、まだ、時々恥ずかしく感じていますが、温泉に入るのが好きになりました。（因みに毎年、横浜教区の神学生合宿期間の間、毎日温泉に入ります。）

二俣川教会 ニュース

- 7月1日より、相鉄二俣川駅の改札口を出たところにある案内地図に、カトリック二俣川教会が掲載されます。それを見て、カトリック教会を訪ねやすくなるといいですね。
- 8月10日、ドミニコ タン・ホアン・フィー助祭の司祭叙階式がベトナムで予定されています。司祭叙階のために、お祈りいたしましょう。7月から霊的花束の呼びかけも始まります。
- 8月20日(日)～21日(月)の日程で、教会学校主催のサマースクールと青年会主催のサマーキャンプの合同企画が開催されます。保土ヶ谷教会とも合同で開催され、未就学児の皆さんから高校生が対象です(時間帯によって参加対象者が違います)。詳細は担当部門からのお知らせをご覧ください。



マリア会通信 No. 129

6月5日に、イエスのカリタス修道女会を通して、ボリビアのオガールファティマ乳児院に合計金額の32万円を送金いたしました。

- ・ボリビア支援グループ 267,400 円
 - ・アンナ会 11,600 円
 - ・一信徒から 41,000 円
- 合計 320,000 円

皆様のご理解とご協力に感謝いたします。

また、現地で宣教なさっているシスター川下からお礼のお便りが届きました。一部をご紹介します。

『手間と真心こめられた贈り物に、オガールファティマ家族一同、心から感動し感謝しています。ジャム販売など地道で、継続した活動が容易なことではないと推察いたします。ボリビアは、今、冬季にあたり、南からの寒気、スール (Sur) がやってくる時期で、免疫力の低い子供たちは、風邪を引きやすく、集団生活なので、瞬く間に感染し、コンコンと咳をしていたかと思うと気管支炎をおこすので、2台の吸入器では、間に合わなくなるようです。この寄付金で、新しい吸入器を2台、冬用の衣服、薬品を購入させていただこうと思っています。姜神父様、信徒の皆様に、どうぞよろしくお伝えくださいますようお願いいたします。』

マリア会 ボリビア支援グループ K. A.

【編集後記】

姜神父様、29回目の叙階記念日おめでとうございます。聖ヤコブ使徒の信仰に力づけられ、殉教した聖ヤコブの祈りを聞き入れて、み心にかなうものとなれますように。今月号にご寄稿いただきました教会学校、財務委員会のご担当の方々に感謝いたします。 (S. O. 記)